

通訳クラスにおけるノートテイキングの指導 —モデルノートと自分のノートの比較を中心に—

森下 美和

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 〒650-8586 神戸市中央区港島 1-1-3

E-mail: miwa@gc.kobegakuin.ac.jp

概要 逐次通訳におけるノートは、通訳者の短期記憶容量の限界を補うための重要な手段であるが、現在の大学および民間の通訳養成機関における通訳訓練の中では、ノートテイキングを具体的にどのように指導あるいは習得すべきかについて、コンセンサスが成立していない（染谷，1994-2015）。本稿では、主に英日逐次通訳を扱うビジネス通訳クラスで、(1) モデルノートを提示した場合、(2) 自分のノートを作成した場合、(3) 最終授業で再度自分のノートを作成した場合の逐次通訳について、通訳パフォーマンスやメモの内容の比較を行い、通訳ノートの在り方について検討する。

Note-taking Instructions in a Business Interpreting Class — Comparison Between ‘Model Notes’ and ‘Students’ Notes’ —

Miwa MORISHITA

Faculty of Global Communication, Kobe Gakuin University 1-1-3 Minatojima, Chuo-ku, Kobe 650-8586 Japan

Abstract Note-taking is an essential part of consecutive interpreting and compensates for the limited capacity for short-term memories of the interpreter. However, neither universities nor private training schools in Japan are offering systematic training for note-taking and there is no general consensus regarding how to organize note-taking training (Someya, 1994-2015). In this study, we investigate how students in a Business Interpreting class engage in note-taking activities and how they view these activities by comparing model notes and students' notes. The pilot study presented here was inspired by Someya (1994-2015).

1. はじめに

逐次通訳におけるノートは、通訳者の短期記憶容量の限界を補うための重要な手段であるが、現在の大学および民間の通訳養成機関における通訳訓練の中では、ノートテイキングを具体的にどのように指導あるいは習得すべきかについて、コンセンサスが成立していない（染谷，1994-2015）。

本稿では、主に英日逐次通訳を扱うビジネス通訳クラスで、(1) モデルノートを提示した場合、(2) 自分のノートを作成した場合、(3) 最終授業で再度自分のノートを作成した場合の逐次通訳について、通訳パフォーマンスやメモの内容の比較を行い、通訳ノートの在り方について検討する。

2. 背景

大学において本格的な通訳教育が行われるようになったのは、2000 年前後になってからの話であるが、

Common European Framework of Reference for Languages (Council of Europe, 2001) にも TILT (Translation and Interpreting in Language Teaching) の考え方が導入されており、一学問分野としての地位を確立しつつある。最近では、シャドーイングなどの通訳訓練が一般的な英語の授業でも取り入れられるようになっており、TOEFL などのリスニングテストにおいて、ノートテイキングの重要性も認められている（森下，2017）。

われわれが「記憶」を意識化して表現し、人に伝えるためには「理解」の「(脳内)言語形式」に落とし込まなければならない。図 1. に示す「命題モデル」によると、我々の記憶に残るのは、テキストの意味内容を構成する命題（およびモダリティ）である。ノートに残されるのは、命題の核となる項と述語（何がどうした）であり、文法的・形式的要素の多くはほぼ自動的に復元可能である。このスケルトンは断片的情報の集合ではなく、その背後に一定の論理構造を持っており、

ノートからの発話の復元を可能にするものでなくてはならない (染谷, 1994-2015)。

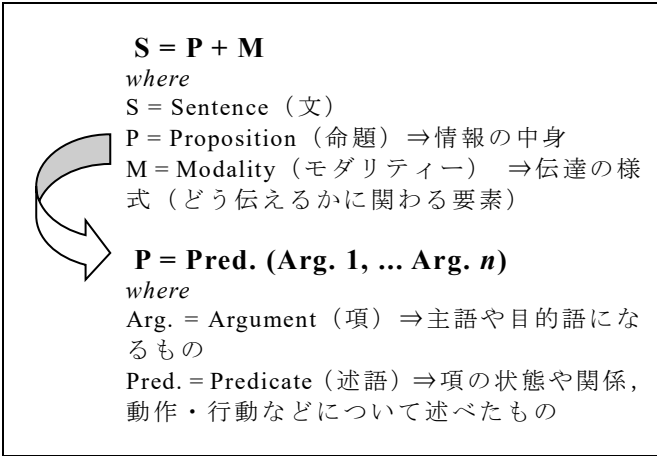


図 1. Fillmore (1968) の言語モデル (染谷, 1994-2015 からの引用)

本稿では、この言語モデルにもとづいて作成されたモデルノート (Appendix 2) を提示した場合と学生が自分のノートを作成した場合の逐次通訳について、通訳パフォーマンスやメモの内容の比較を行い、通訳ノートの在り方について検討した。

3. 実践方法

3.1. 協力者

調査協力者は、2016 年度の秋学期に、著者の担当するビジネス通訳クラスを受講した大学 3 年生 18 名である。ビジネス英語に特化した Versant Writing Test (Pearson, 2013) の平均は 53.9 点 (最低 41 点, 最高 63 点) で、CEFR の B1~B2 に当たるレベルであった。

3.2. 授業内容

授業では、各種ビジネス場面を想定し、主として英日を中心とした通訳トレーニング (逐次通訳) を行った。基本的には、音声を聞きながらノートを取り、1 パラグラフ程度ごとに通訳するという流れで、個人・ペア・グループ単位での活動を行った。

ノートテイキングについては、自分なりのスタイルの確立を促すと同時に、図 1 の言語モデルを参考に、枝葉末節にわたる発話の詳細は省き、主語と述語 (動詞) からなる命題のメモを優先させることなどを説明した。また、情報密度の高い漢字の有効活用も含めてターゲット言語である日本語も積極的に使用するよう指導した。= (等しい), ≈ (ほとんど等しい), ≠ (異なる), ∴ (ゆえに), ∵ (なぜならば) など、ノートテイキングによく使われる省略記号の紹介も行った (森下, 2017)。

3.3. 手順

数回の授業において逐次通訳の練習を行い、逐次通訳の方法にある程度慣れたところで、10 月下旬の授業内で、同じテキスト (Appendix 1; 井, 2000) の音声を聞かせ、1 回目はモデルノートを見ながら、2 回目は自分でノートを取りながら、2 回連続で通訳をさせた。また、1 月の最終授業で、再度同じテキストの音声を聞かせ、10 月の 2 回目と同じ方法で逐次通訳をさせた。通訳ノート (A4 コピー用紙) および録音音声はそれぞれ回収した。ノートには、逐次通訳の直後にモデルノートと自分のノートについてのコメントを書かせ、音声については宿題として書き起こしを提出させた。また、最終授業でアンケート調査 (Appendix 3) を実施した。

4. 結果と考察

(1) モデルノートを提示した場合, (2) 自分のノートを作成した場合, (3) 最終授業で再度自分のノートを作成した場合の逐次通訳について, (1) と (2) における通訳パフォーマンスの比較, および調査全体を通しての学生のコメントを紹介する。

4.1. 通訳パフォーマンスの比較

10 月下旬の授業内で、モデルノートでの通訳の直後に、自分でノートを取りながら、2 回目の通訳を行った。その内容が改善された例と改善されていない例をいくつか示す (改善されていても、必ずしも正確な訳になっているとは限らない)。

【改善された例】

1) My name is Hisashi Tashiro. I'm from Sendai, a city north of Tokyo.

たしろひさしさんという仙台の方は

↓

私はひさしたしろと申します。東京より北の仙台というところから来ました。

2) I'm really looking forward to working with "our team" because I've heard so many wonderful things about you from our Tokyo office.

東京のオフィスでたくさん楽しい経験をした人だと聞いているので楽しみです。

↓

東京にいるときから皆さんの素晴らしい噂を聞いているので楽しみです。

3) I'd like to say that I'll be happy to share many cultural aspects of Japan with you as we work together.

働くことによって、文化を交換しあうことを楽しみにしております。

↓

一緒に働くことによって、文化を共有できることをとても幸せに思っています。

【改善されていない例】

1) Thank you Mr. Wright for your kind words.

本日はライトさんがお話いたします。

↓

本日はライトさんの紹介で参りました。

改善されなかった問題点：挨拶などの定型表現に関する知識不足。

2) ...but that you would leave at 7 o'clock. Seeing that it's now 6:58, I have no time to waste...

7分には終われと言われましたが、今もう6分58秒です。

↓

7分に収まるようにと言われましたが、こちらいま6分58秒です。あともう2秒しかありません。

改善されなかった問題点：時刻と時間を混合している。

3) My wife and two sons will join me in March, when the Japanese school year comes to an end.

妻と2人の息子がいますが、彼等は5月、それも小学校の学期が終わるときにこちらへ移住してくる予定です。

↓

私には妻と2人の息子がおり、彼等はこの5月にここへきます。というも小学校の学期が終わるまで待つてやりたかったからです。

改善されなかった問題点：表現には工夫が見られるようになったが、単語レベルの間違い(5月)が修正できていない。

4) This is my third trip to the U.S., and I can honestly say that I have greatly enjoyed previous visits. I'm sure this time will be no different.

私は3回アメリカに訪問していますが、今回の訪問は前回より楽しいと思います。

↓

私はアメリカを3回訪れていますが、今回、今までより楽しんでます。

改善されなかった問題点：今回が3回目の訪問であることが正しく伝えられておらず、また no different の意味が理解できていない。

5) I hope that you will educate me in American ways as well.

アメリカでの教育方法も教えていただきたいと思いません。

↓

アメリカの方法で私を教育していただきたいと思っています。

改善されなかった問題点：修正を試みたものの、やはり American ways (アメリカ合衆国の流儀)の意味が理解できていない。

4.2. 学生のコメント

10月と1月の調査における逐次通訳で作成・提出させたノートおよびアンケート調査で収集した学生のコメントを一部抜粋する。読みやすさを考慮し、誤字・脱字、分かりにくい表現などを著者により適宜修正している。また、ここでの「ノート」と「メモ」、「モデル」と「サンプル」という語句はそれぞれ、基本的に同じ意味で使用されている。

【モデルノートと自分のノートの比較】

・サンプルメモは細かいところまでアルファベットの略語などを用いて表されていて分かりやすかったが、実際に自分がサンプルメモのようにしっかりノートテイキングができるようになるには訓練が必要だし、このフレーズや単語にはこのマークを使うなど、ある程度のルールを決めた上で訓練に入るべきだと思った。

・モデルノートはわかりやすく、自分がいまいであまり理解できていないところもノートのおかげで訳ができてしまったという面がある。また、2回目も、モデルノートよりもきれいで整頓されたノートをとることはできなかったが、どこを書くべきかということがわかったので、いつもよりノートがとりやすかった。今までより、一番通訳ができたと感じた。この方法は、どこをどのようにノートにとるべきかわかるので良いと思った。

・人のメモをみて通訳をすることは少し難しかったです。メモ自体はすごくわかりやすくして内容は理解しやすかったけど、どうしても内容を聞く前にメモを読むことに必死になってしまった。自分のメモで通訳をするときは、メモを書くことに必死にはなるけど、書きながら自分の頭を整理できるので良いと思った。しかし効率の良いメモのとり方がわからなかった。

- ・適切にキーワードを抜き出して書かれたノートであったので、わかりやすかった。ノートをとるという手間が省ける分、訳を考える余裕も生まれた気がする。だが、他人の書いたノートを用いて通訳をしなければならぬ状況があるのかどうかかわからないが、あるとすればそれは難しいと思った。私がノートを読んで理解したと思ったことと、実際の音声の内容が微妙に食い違う場面が何度かあったからである。
- ・モデルメモは独自の記号が使われていて、わかりにくい部分があった。

【10月と1月のノートの比較】

<改善された点>

1) 要点の絞り込み

- ・秋の時点では、話の内容すべてをキャッチしようと欲張っていたが、今回は要点やキーワードを中心に効率よくメモをとった点。
- ・より重要なキーワードをノートにとれるようになってきている。
- ・9月は文でメモを取っていたが、今回は単語でメモを取っていた。
- ・聞き取り漏れがいくつかまだあるが、シンプルかつまとまりがあるようにはなってきた。

2) 日本語の活用

- ・日本語と英語を使い分けてメモを取っている。
- ・聞いた瞬間に、日本語で書けるものはできるだけ訳した状態でメモできるようになった。
- ・前は英語が多めだったが、日本語が多くなった。

3) 省略記号などの活用

- ・矢印をうまく活用できるようになってきた。
- ・略語が少しだけ増えた。
- ・固有名詞に丸をつけている。
- ・全体的にメモが少なくなった。no time to waste を× waste と記号で置き換えているところは、情報回復力と効率性の観点からよくバランスが取れていると思う。

4) 用紙の使い方

- ・よりスペースを活用しながらメモをとっていた。
- ・紙の余白をより余裕を持って取るようになった。
- ・パラグラフの切れ目ごとに線を引くようになった。
- ・大きくメモを取るようになった。

<改善されていない点>

1) 構造的なメモの取り方

- ・構成力のなさ。見やすいノートではないところ。
- ・文と文の関係性がわかるように取れていない。

- ・品詞によって書く場所を決めたほうがよいと教わったが、書いているときはあまり気にしている余裕がなかった。

2) リスニング力

- ・すべての情報を聞き取れなかった点。
- ・メモを書いているとき、流れている文章の聞き取りがおろそかになっている。

3) その他

- ・英語だけでメモしている点。
- ・メモの量は変わっていないと思った。
- ・メモを取る箇所やメモしたキーワードはほぼ変わっていなかった。

【ノートテイキングと通訳パフォーマンスの関係】

1) メモの量

- ・意外とメモが少ないときのほうがうまく訳せている気がします（記憶している場合が多いので）。
- ・メモを簡略化した方が内容に集中できると思った。メモを取ることに必死になるよりは、内容に集中して単語でメモを取った方が訳せると感じた。
- ・あまりメモを取りすぎると、逆に聞き取れていなくて訳出ができなくなる。
- ・メモに時間をかけると通訳に入る時間が遅くなってしまふ、かつ、細かい内容を忘れてしまふ。

2) メモの重要性

- ・記憶が一瞬で消えてしまうところを、このメモが助けてくれるということを痛感しました。
- ・長い発話を訳すには、やはりメモが必要不可欠であると考えた。メモを英語で取るか日本語で取るかで、文字数や書きやすさが変わってくるので、自分の書きやすいほうをベースにとっさの判断が必要だと思った。
- ・通訳メモが的確で、なおかつシンプルであれば、それだけパフォーマンスが向上している気がしました。
- ・日本語でメモをとると、通訳するときにはいちいち日本語になおす必要がなくなった。
- ・授業で扱ったぐらいの発話の長さであれば、しっかりノートを取らなくてもある程度の訳をできると思うが、5分、10分となったときに、メモはかなり重要になると思う。

3) 練習の重要性

- ・何度も練習することで、メモもとれるようになり、パフォーマンスも向上すると思った。同じ文を練習することで、通訳のきまりきった表現などを理解しおぼえることができた。

5. まとめと今後の課題

本稿では、主に英日逐次通訳を扱うビジネス通訳クラスで、(1) モデルノートを提示した場合、(2) 自分のノートを作成した場合、(3) 最終授業で再度自分のノートを作成した場合の逐次通訳について、通訳パフォーマンスやメモの内容の比較を行い、通訳ノートの在り方について検討した。

今回のようなモデルノートには、必要な情報がすべて網羅されているため、リスニング力が多少不足していても通訳トレーニングを進めることができる点で利用価値がある。しかしながら、実際はモデルノートを使用しても誤訳があり、自分のノートを作成した2回目の通訳でも修正できない例が散見された。学生のコメントでも指摘されているとおり、十分理解できない状態の他人のノートや、自分で作成しても内容を理解しないまま取ったノートでは、正しい通訳に結びつかないことが示唆された。

言語モデルにもとづいて作成されたモデルノートは確かに理想的だが、情報量の観点からも、実際に通訳しながら作成することは難しいと考えられる。モデルノートをさらにスリム化させ、より現実的なものにする必要があるだろう。

また、学生のコメントの中に、「ほかの人のスタイルを真似して、自分の通訳スタイルをすこし確立できた気がした」というものがあつたが、今後はモデルノートだけでなく、学生同士でお互いのノートを使って通訳してみるなど、自分のスタイルが確立できる助けとなるような機会を増やしていきたい。

本稿では、学生がモデルノートと自分のノートを使用して通訳した場合の比較を中心に議論したが、今後はさらにノートテイキングと通訳パフォーマンスの関係について調査を進め、現実的なモデルノートを提案したいと考えている。

文 献

- [1] Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- [2] Fillmore, C. J. (1968). The case for case. In E. Bach & R. T. Harms (Eds.), *Universals in linguistic theory*. New York: Holt, Rinehart, and Winston, 1-88.
- [3] Pearson. (2013). *Versant writing test: Test description and validation summary*. Menlo Park, CA.
- [4] 井洋二郎 (2000)「英語ビジネススピーチ実例集」ジャパンタイムズ
- [5] 染谷泰正 (1994-2015)「英語通訳訓練法入門」(オンライン版) 関西大学外国語学部通訳翻訳プログラム用教材(※プログラムの詳細は、染谷 (2015) 参照)
- [6] 染谷泰正 (2015)「大学における通訳教育のためのeラーニング教材の開発とその学習効果に関する

実証研究」平成 26 年度科学研究費助成事業研究実績報告書(課題番号: 243220112, 研究代表者: 染谷泰正・関西大学)

http://someya-net.com/99-MiscPapers/Kakenhi_2015.6.12.pdf

- [7] 森下美和 (2017)「ビジネス通訳クラスにおけるノートテイキング」ことばの科学研究第 18 号, 101-109.

Appendix 1 : 調査用テキスト (井, 2000)

INTRODUCING YOURSELF AT A COMPANY PARTY

Thank you Mr. Wright for your kind words. By the way ladies and gentlemen, when I asked Mr. Wright how long I should talk, he told me to take as long as I wanted - but that you would leave at 7 o'clock. Seeing that it's now 6:58, I have no time to waste... Seriously though, my name is Hisashi Tashiro. I'm from Sendai, a city north of Tokyo. Upon graduation from university, I worked for our company starting out as a technician in materials analysis before becoming a chemical engineer. Last week, I arrived here in Miami unaccompanied. My wife and two sons will join me in March, when the Japanese school year comes to an end.

This is my third trip to the U.S., and I can honestly say that I have greatly enjoyed previous visits. I'm sure this time will be no different. As most of you know, I have been assigned to this branch as a chief consultant in R&D. I'm really looking forward to working with "our team" because I've heard so many wonderful things about you from our Tokyo office. In closing, I'd like to say that I'll be happy to share many cultural aspects of Japan with you as we work together. And, of course, I hope that you will educate me in American ways as well. Thank you.

Appendix 2 : モデルノート

(染谷, 1994-2015)

TKS ライト BTW: asked ラ → speech time? ↓ 好きなだけ but must leave at ㊥ Now 6.58 = no time to lose!
joke aside: name Hisashi Tashiro Sendai, N/Tky 大卒ご wrk here as tech/matr_analys ↓ then chem/engr.
LW: come to Miami ひとり Wife & 2 sons in March = J schl. end My 3rd trip to US enjoyed prev/visit & 今回も!
AYK: assign as chf-consul/R&D たのしみ wrk with <u>our team</u> ↓ cz = heard many good/thng about you in Tky!
CL: hpy shr/culture-j as wrk together もちろん A-way も教えて!! TKS

Appendix 3 : アンケート調査

- 1) 10 月に取った Talk 1 の通訳メモと今回のメモを比較し, 変わったと思う点を挙げてください。
- 2) 10 月に取った Talk 1 の通訳メモと今回のメモを比較し, 変わっていないと思う点を挙げてください。
- 3) 通訳メモとパフォーマンスの関係について, 気づいたことがあれば自由に書いてください。
- 4) このクラスで学べたと思う点を挙げてください。
- 5) このクラスで改善した方がよいと思う点を挙げてください。